

〔平成20年12月3日（水）〕

美しい森林づくりニュース 〈NO. 109〉

～ 伝えたい木の文化、残したい美しい森 ～

発信元：林野庁 研究・保全課 森林環境保全班 企画調整係 山口
Tel：03-3502-8111（内線6216）03-3501-3845（直通）Fax：03-3502-2887

ご意見、ご質問は → https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=82
バックナンバーは → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/news.html>

◎ 「緑の募金」への協力に対して感謝状を贈呈

ー サントリー株式会社環境部担当取締役役に農林水産大臣感謝状を授与 ー

11月21日（金）、「緑の募金」活動に多大な貢献をいただいた団体に対して感謝状を贈呈する規程に基づき、内藤林野庁長官からサントリー株式会社（東京都港区）の小嶋幸次環境部担当取締役役に農林水産大臣感謝状が贈呈（伝達）されました。



感謝状を手に記念撮影（左より：ウォータービジネス部鈴木氏、小嶋取締役、内藤長官、環境部山田氏、大竹ウォータービジネス部課長）

同社は、平成20年4月22日より「サントリー天然水」500mlペットボトル販売1本につき2.5円を「緑の募金」に寄附する取り組みを実施し、その額が1,200万円に達したものです。「緑の募金」は、国民参加による森林づくりに活用され、地球温暖化防止をはじめとする地球環境の保全に役立てられています。



内藤長官に取組の説明をする小嶋取締役ら

（サントリー株式会社の水源かん養活動）

サントリーの主な事業は、いずれも水や農産物といった自然の恵みに支えられています。それゆえ「水と生きる」企業が循環型社会の中で果たすべき責任として最も重要なテーマは、「水のサステナビリティ」を実現することだと考えています。

水の品質保証を行い、水を大切に使い、きれいにして還し、水を育む森を守るといった自然界の水の循環に負荷をかけない事業活動を目指しています。

水を育む森を守る活動は、かけがえのない地下水（天然水）の持続可能性を守るための活動です。

「天然水の森」と名づけ、工場の水源にあたる場所を中心に全国

7箇所で開催しています。現在の「天然水の森」の面積は約493ha（うち国有林「法人の森林」175ha）で、今後も順次涵養エリアを拡大していく計画です。

詳しくはこちらから

→ <http://www.suntory.co.jp/eco/forest/>

◎「第2回 森のJOMOカップ・緑の文化祭2008」を開催

— 森の紙芝居部門、森の歌部門の各優秀作品の上演、演奏を開催 —

11月24日(月・祝)、東京都内において、「第2回 森のJOMOカップ・緑の文化祭2008」が開催されました。

全国各地の子ども達からたくさんの個性あふれる素晴らしい作品の数々が集まりました。その数は、森の紙芝居部門45作品、森の歌部門においては51作品の応募がありました。

10月下旬、宮川彬良氏(作曲家・舞台音楽家)を名誉審査委員長に迎え、ちぎり絵や音楽監督など各方面で活躍されている方々が審査委員として、最優秀賞(林野庁長官賞)、優秀賞(JOMOカップ賞)等28作品を選考しました。

緑の文化祭2008では、審査委員による講評に続き各部門の受賞作品が、各作成者による上演並びにことのみ児童合唱団による合唱がありました。

また、今年の最優秀賞作品の上演・合唱もあり、子どもたちが生きる未来のために「森」をどう守り育てて行くべきかを、みんなで考える良い機会となりました。

各部門の最優秀賞、優秀賞、入選作品はこちらから

→ <http://www.n-gec.org/topics/2008/11/2jomo2008.html>



ことのみ児童合唱団による優秀作品の合唱

左下：小学生部門・最優秀賞(林野庁長官賞)「きりがみの森」
右下：表彰される同作者のチーム名、ユニコーン・和田幸さん



森の紙芝居



右上：中学生部門・最優秀賞(林野庁長官賞)「ゆかのひみつの森」
左上：同作品を上演するチーム名、はたやファミリー・幡谷明里さん

※「美しい森林づくりニュース」のメールマガジンの配信を始めています。

登録はこちらから → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/mail.html>